

機友会ニュース

理工学部創立六〇周年を迎えて

立命館大学機友会会長 島田 泰男

(昭和二十二年卒)

会員の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃、本会の諸活動に幅広くご支援を賜り、誠に有難く厚くお礼申し上げます。

さて、母校の理工学部は昭和十三年（一九三八年）に立命館高等工科学校として発足以来、本年度丁度六〇周年を迎え、理工学部教授会と校友の連携組織を設けて、広範な記念事業に取り組んでおります。とくに、平成十一年一月二十四日（日）・JR京都駅構内ホテルグランヴィアにて創立六〇周年記念校友大会を開催することになり、そのための実行委員会が設置され、機友会会長の小生が委員長を仰せつかり、責任の重さを痛感しております。

実行委員会内には事業委員会が置かれ、委員各位のご支援により、記念写真集の出版企画が進んでおります。また、必要な財源確保のための財務委員会では、前記写真



集に協賛広告を募ることにより必要経費の捻出に努める努力が重ねられています。この広告協賛については会員各位からも多くのご支援を賜り、誠に有難うございました。さらに、広報委員会では四万人の理工学部校友に対する広報活動を展開して頂いております。

また、このような記念校友大会の機会に理工学部全体の同窓組織を確立することの意義が広く指摘され、各学科ごとの同窓会を横に連結するような連合体または連絡協議会のような同窓組織の結成が

検討されています。是非ともこの組織を完成させ、母校と校友との相互協力を通じて、母校のさらなる発展と会員各位の益々のご隆盛に貢献できれば誠に幸いに存じます。

一方、機械工学科の恩師でもある大南正瑛総長は、この十二月末日をもって二期八年の任期を満了されます。先生はびわこ・くさつキャンパスへの理工学部拡充移転や政策科学部の新設など、本学の第四次長期計画を見事にリードされ、母校の社会的評価を飛躍的に高められました。

大南先生の総長任期満了という記念すべき時期が、理工学部創立六〇周年の時期に重なるという偶然にも、一入感慨深いものがございます。このような特別なタイミングで上記の記念校友大会が開催されるわけであり、理工学部卒業生であるとともに機械工学科の卒業生である機友会会員にあっては、全国各地からは是非とも多数ご参加頂きまして、ともに大南先生の長年にわたるご指導とご尽力に謝意を表したく存じます。

また、機友会では現在、全国を十三ブロックに分割した支部組織の結成に取り組んでおり、本年七月十一日には関係各位のご尽力により、第十番目の支部として九州支部が発足致しました。さらに、現在、第十一番目の支部として四国支部の設立準備が進捗しており、来春には設立総会が開催される運びでございます。会員各位には、今後とも引き続き種々ご支援を賜

りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。最後に、会員各位の益々のご健勝とご発展を祈念して、ご挨拶に替えさせていただきます。

立命館学園の夢ひらく前途に寄せて

立命館総長・学長

大南 正瑛 (昭和二十九年卒)

機友会会員の皆様には、益々ご壮健にてご活躍のこととお慶び申し上げます。平素は本学園の発展に向けて多大のご支援とご高配を賜り、誠に有難く厚くお礼申し上げます。

さて、皆様の母校・立命館大学は、校友をはじめ各界・各層の幅広いご支援により、びわこ・くさつキャンパス（BKIC）への理工学部拡充移転と政策科学部の設置を基軸とする第四次長期計画を成し遂げることができました。また、本年四月には経済・経営両学部がBKICに新展開し、学生規模一万四千名の文字どおり文理融合型インテリジェントキャンパス



が誕生致しました。ここでは世界と社会の需要から発想した文理総合インスティテュートとよばれる斬新な文理融合型のカリキュラムと教育システムがとられております。そこでは経済学部や経営学部所属で多くの理工学部専門科目を勉強する学生や、逆に理工学部学生で経済学部や経営学部の専門科目を広く勉強する学生諸君をサポートし、経営センスに優れた技術者や、科学技術に精通した企業経営者を輩出するための新たな教育研究が展開されています。

理工学部は本年創立六〇周年を迎えて、機友会の島田会長を委員長とする記念校友大会実行委員会が組織され、広範な記念事業が推進されておりますことに関し、学園を代表してお祝いを申し上げます。昭和十三年（一九三八年）に立命館高等工科学校として発足以来、翌年には立命館日満高等工科学校に改組、その後、専門学部、専門学校等の変遷を経て、昭和二十四年に新制立命館大学理工学部として再スタートし、現在の理工学部

に成長してきたわけであり、日本近代史をそのまま反映したこの六〇年間における機械系学科の卒業生で構成される機友会の諸活動が、いま島田会長のご指導のもとに力強く推進され、全国規模での支部組織がほぼ完成する段階まで到達されました点について、敬意を表したく存じます。

理工学部では各学科ごとの同窓組織をもとに学部全体の校友組織

を強化する企画が推進されているように伺っております。誠に時宜を得た好企画であり、校友と母校のネットワークとして、大きな展開を期待する次第です。現在、各学部で同様の企画が進捗しつつあり、全学的な校友会活動とも有機的結合をはかりつつ、二十二万名にのぼる全校友と母校との絆をさらに太くし、双方の相互協力を通じて、本学園の二十一世紀への新たな飛躍を目指したく存じます。

二〇〇〇年に大分県別府市に「立命館アジア太平洋大学」を設置する大型事業についても、国内外の各界のご協力を得て、本年九月文部省に設置申請を行い、正式に受理されるまで漕ぎ着けることができました。国内外ともに厳しく不透明な社会・経済状況もありますが、日本では先例のない国際大学である新大設立に対する大きな社会的期待の中で設置実現の確かな手応えを感じております。この新大学の設立と成功はいうまでもなく、本学園の次の一世紀の姿を形成する大事業であり引き続き校友各位の絶大なるご支援をお願いする次第です。

私は、二期八年の任期を勤め了えて総長・学長職を退任することになりました。総長在任中は校友会の皆様をはじめ多くの校友各位に、幅広く温かいご支援を賜り、衷心より厚くお礼申し上げます。二十一世紀を目前に控えた今、新たな飛躍に向けて、正に立命館学園の大きな夢ひらく気配を感じつつ、総長職を長田豊臣新総長にバ

トンタツチでできることを、この上なく幸せに存じます。新総長のリーダーシップのもとに、学園関係者と校友が一九九八年七月十一日に重ねられ、「世界のなかのベストユニバーシティ立命館」が実現することを念願致しております。最後に、会員各位の益々のご健勝とご発展を祈念して、ご挨拶に替えさせていただきます。

支部だより

九州支部が力強く発足

支部長 松村博久

(昭和三十三年卒)

機友会会員の皆様には、お元気で過ごさしめたいとお慶び申し上げます。

さて、このたび九州八県にご在住の機械工学科卒業生各位の温かいご協力により、立命館大学校友会九州支部がめでたく発足致しました。一九九七年十二月十四日および一九九八年二月二十一日には機友会会長・島田泰男氏ならびに母校機械工学科・酒井達雄教授のご出席を得て、十八名の準備委員による、二回にわたる準備委員会が持たれ、一九九八年七月十一日に支部設立記念総会が開催されました。総会では最初に支部会則制定と役員選出等の議事があり、続いて機械工学科の恩師でもあり、

現在、立命館総長・学長の大本正瑛先生の特別講演「立命館アジア太平洋大学の創設と立命館学園の新展開」を拝聴しました。大南総長の情熱的な講演に接し、熱気の中で参加者一同、母校の著しい発展に目を見張る思いでございました。

なお、役員選出にあたり期せず小生が初代支部長を仰せつかることとなりまして。微力ながらベストを尽くして責任を果たしたいと考えておりますので、幅広く皆様のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本支部会員は住所が判明している範囲で180名程度の会員数規模であり、住所不明の会員を含めると300名以上の規模にのぼると予想されます。身近なご友人同士で情報交換しながら、校友諸氏のご住所など判明の際は、是非とも情報を母校機友会本部ならびに当方宛にご一報頂きたく存じます。総会は隔年で開催されることになっており、総会が開催されるたびに母校との絆が太くなり、校友相互の親睦も深まりますよう、支部会員各位には多数ご参加を賜りたく、格別のご理解とご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

また、すでに全国各地で十支部が発足しており、今後、各支部間および本部・支部間の相互交流も重要になって参ります。楽しく力強い機友会を目指して、お互いに無理はせず持続可能な前進をはかりたいと考える次第でございます。最後に、会員各位の益々のご健

立命館大学機友会九州支部設立記念総会



勝と機友会の発展、さらに母校の一層の発展をお祈り申し上げます。

滋賀支部第四回総会を開催

支部長 山田元助

(昭和二十二年卒)

台風七号で心配されていた天候も回復した平成十年九月二十三日

に滋賀支部(愛称、びわこ機友会)の第四回総会がクサツエストピアホテルで開催されました。支部第一号として誕生したのが平成四年九月六日、設立後六年になります。当日、講演会の講師として田中道七先生、来賓として、島田泰男

機友会会長、大学から秋下貞夫、岩清水幸夫、川村貞夫の諸先生、当支部の会員として田中武司、酒井達雄両先生、又、山元茂先生が出席されました。

第一部・総会は午後一時三十分から田中武司相談役司会の下、支部長が議長となって順調に進行し、議案①役員改選と②会則の一部変更が原案通り可決されました。役員改選の結果は次の通りです。

「支部長」山田元助(副支部長)石川隆司、北河博、藤谷勝、「庶務幹事」荒堀俊夫、尾本守、上野哲夫、「会計幹事」青木一夫、「会計監査」石本与一郎、武田幸三、「相談役」藤野俊英、田中武司、羽室光郎(敬称略)

引き続き来賓、島田機友会会長から懇切な挨拶と立命館大学理工学部創立六〇周年記念校友大会の開催の披露がありました。(実行委員長は島田機友会会長。)平成十一年一月二十四日(日)にホテルグランヴィアで開催とのこと。機友会の皆さん、是非参加しましょう!

第二部。「講演会とビデオの上映」は、藤谷副支部長の司会で行われ、BKCRエゾンオフィス室長の田中道七先生が「産学交流の現状と将来展望について」講演されました。

母校は学術研究・科学技術の発展と社会への貢献のため組織的に産官学交流に取り組んでいますが、その重要部門の産官学交流事業推進室長として多大の成果をあげておられる田中道七先生の実情をふ

また、わかり易いお話は、配布された具体的な資料と共に、出席者一同を魅了し深い感銘を与えました。

母校は最新の極めて充実した研究設備を有し、七つの研究センターを通じて豊富で柔軟な提携メニューを提案し、その成果は素晴らしい、これは現在の不況打解に努力中の会員に貴重な示唆を与えるものであり、誠に有意義な講演でした。

引き続きNHK・TVが平成十年一月二十日、産学交流やパテントビジネスの成功例として全国に放映した「立命館大学と東京大学」の実例のTV(三十分)のビデオを上映しました。タイトルは「研究成果を売ります。本格化する大学ビジネス」で母校の成功例の中から川村先生の「靴下の自動生産に関する研究」が、とりあげられています。

このビデオ放映後、当日出席の川村先生からNHK放映後の反響についてユーモア溢れるお話があり、会場は爆笑の渦で大いに盛りあがりました。

記念撮影が和気あいあいの中で行われた後、第三部・懇親会が藤野相談役の司会で始まり、石川副支部長の開会の辞のあと来賓の諸先生紹介と諸先生の挨拶があり、秋下先生の音頭で一同乾盃して開宴。出席者一同楽しい雰囲気の中で酒を汲みかわし、食事を共にしながら存分に歓談して交流を深めました。

酒井先生の音頭で声高らかに校



歌を合唱、当日出席者中一番若い岡本美佐雄さんの音頭で萬歳を三唱し、北河副支部長の閉会の辞で午後六時四十分、定刻通りめでたくお開きとなりました。

当日、六名の会員が新たに終身会員になりましたが、これは当支部にとつて誠に心強いことで終身会員が五十九名になりました。

かくして台風七号一過の秋分の日、楽しく力強い「びわこ機友会」は、より発展をめざして新しい第一歩をふみだしました。

皆様の一層のご健勝をお祈りしますと共に今後とも私達に、あたたいかいご指導ご支援を賜ります様お願い申し上げます。



和と輪を求めて
—北陸信越支部の活動 その三—
支部長 角野豊春
(昭和二十六年卒)

平成四年九月に発足した北陸信越支部は六カ年を経過しました。年月の経過は誠に速いものです。これまでに支部会則に則った種々の事業を展開し、会員相互の和と輪の広がりを求めて活動を行って参りました。支部の創設期より約四カ年間の活動概要と支部の紹介に付きましては、本ニュース第一号および第二号で紹介をさせて頂きました。その後の活動の概要を表にまとめて紹介させて頂きます。二年に一度開催される支部総会も四回目を迎えました。第一回の支部設立総会を富山市で開催した後、第二回を福井市、第三回を新潟県佐渡島で開催し、今回は長野県松本市郊外の安曇野を会場として開催致しました。遠くにアルプスの山並みを望むのどかな田園風景の広がる穂高・安曇野に多くの会員が参集致しました。母校より、公務ご多忙にも関わらず総長・学長 大南正瑛先生ご夫妻、機友会本部長・島田泰男様並びに母校教授酒井達雄先生、校友課より中山雅博様のご臨席を賜り盛大な総会となりました。また、今回はご婦人同伴での参加をご案内し、五名のご婦人の御出席を得て花を添えて頂きました。この企画はご婦人に立命館の現状を理解して頂き、

北陸信越支部の活動状況

(平成8年10月～平成10年10月)

開催年月日	行事名称	開催場所	備考
H8.10.19 (土)	第3回支部総会・懇親会	ごんざや旅館 (新潟県小木町)	記念講演1「びわこ・くさつキャンパスの現状と将来」 立命館大学教授 酒井達雄先生 記念講演2「世界の注目を集める北東アジア」 (株)大西 代表取締役社長 大西 淳氏
H8.10.20 (日)	佐渡観光		観光コース：真野湾、尖閣湾、佐渡金山、大佐渡スカイライン、大佐渡高原白雲台、鉄砲鼻、他
H9.3.8 (土)	特別会員懇談会	名鉄トヤマホテル (富山市)	役員打合せ会を兼ねる
H9.6.7 (土) ~ 8 (日)	第8回支部役員会並びに石川県会員懇談会	金沢シティモンドホテル (金沢市)	特別講演「チェーン屋から見た四輪・二輪車の動向」 大同工業(株)製品企画部部长 山田 昭氏 懇親会：玉寿司(交友経営の店) 金沢市内観光(武家屋敷、忍者寺、東茶屋街、他)
H9.9.20 (土)	役員打合せ会	福井ワシントンホテル (福井市)	
H9.11.8 (土)	立命館大学全国交友大会	都ホテル (京都市)	当支部より、支部長 他4名参加
H9.11.30 (日)	機友会本部支部合同役員会 機友会第16回定期総会・懇親会	立命館大学BKC	当支部より、支部長 他6名参加
H10.2.14 (土)	第9回支部役員会並びに新年祝賀交歓会	名鉄トヤマホテル (富山市)	講演「母校並びに機友会の現状と将来」 立命館大学教授 酒井達雄先生
H10.2.15 (日)	見学会	国宝「瑞龍寺」(高岡市)	国宝指定を記念して
H10.4.18 (土)	役員打合せ会	福井ワシントンホテル (福井市)	
H10.8.22 (土)	役員打合せ会	福井ワシントンホテル (福井市)	
H10.10.24 (土)	第4回支部総会・懇親会	せきえい旅館「麓」(長野県徳高町)	記念講演1「松本サリン事件について」 弁護士 竹川進一先生 記念講演2「立命館学園と私」 立命館総長 大南正瑛先生
H10.10.25 (日)	安曇野散策の旅		ちひろ美術館、森山美術館、ガラス工房、大王わさび農場、道祖神、他



機友会会員（主人）の活動を円滑に実施する一助となればとのもくろみと、ご婦人の慰労の二面を狙ったものです。

支部総会では記念講演を二件お願い致しました。一件は昭和四十四年立命館大学法学部を卒業され長野県を中心に弁護士活動を活発に、精力的に展開しておられる竹川進一先生にお願いし、「松本サリン事件」に関してお話を頂きました。この事件を通じて、市民の科学的物の考え方の不足・被疑者の弁護活動に対する民主化の不足・犯罪の組織化、広域化、高度化、の三点を指摘されたことは深

く印象に残りました。もう一件は総長・大南正瑛先生にお願いし、「立命館と私」と題して、先生の学生時代、教員時代、そして総長としての八カ年を振り返ってお話を頂きました。常に立命館学園の発展に尽力され、教育・研究に斬新な方法を導入されたお姿に接し、今日の素晴らしい学園を築いて頂



いたご功績に敬意と感謝の念を抱きました。とりわけ、「夢、それは実現するもの」とのお言葉は参加者一同に夢と勇気を与えて頂きました。

支部総会後の懇親会では、信州の山菜料理をふんだんに味わい、秋の夜長を会員相互の親睦に費やしました。

支部総会の翌日は紅葉の美しい徳高・安曇野散策の旅を行いました。秋晴れの天候に恵まれ、また地元会員の綿密なスケジュールと行き届いた心配りに助けられ楽しい観光となり、会員相互の親睦が一層深まったことは勿論です。さらにはご婦人（女房）に対する慰労にも十分な効果があったと存じ

ます。なお、次回の第五回支部総会は二年後の平成十二年秋に石川県で開催する予定で、再会を堅く約束致しました。

これまでに展開してきました種々の活動は支部会員各位の御協力と御支援の賜物であり、また機友会本部役員並びに母校教職員各位の多大な御援助の賜物と深く感謝申し上げます。今後も会員相互の和と輪の広がりを目指して活発な事業を展開して参りたいと考えております。会員諸兄の御理解と御協力を切にお願いする次第であります。

弔辞

京都支部役員一同
平成十年一月九日午前十一時十分、立命館大学機友会京都支部長の津田幸彦氏がご逝去されました。津田幸彦氏は津田電線株式会社代表取締役会長をお務めなされる傍ら、機友会京都支部の設立にご尽力され、平成四年十月三日に開催された支部設立記念総会において出席者全員の懇請を受けて初代支部長にご就任され、豊かなご経験と温かいお人柄により、これまで京都支部を力強くご指導頂いてきたわけであります。このたびの突然の訃報に接し、誠に残念であり慟悔に堪えない次第でございます。ここに、京都支部役員一同、これまでのご指導とご尽力に対して厚くお礼を申し上げるとともに、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

同窓会だより

第九回オアシス会 秋の行幸
須磨浦山上より
明石海峡大橋を望む
小野健二（昭和三十年卒）



第9回 オアシス会（背景は当日の会場・シーパル須磨）

藤谷・酒井研究室同窓会では憩の場「オアシス会」という愛称で、前回はBKCの地元信楽の登り窯を見学しましたが、今回はこの春開通した明石海峡大橋を山の上から眺めようという事から須磨浦山上へ出かけました。十一月八日連日の冷え込みにも拘らず当日は絶好の小春日和に恵まれ山陽須磨浦公園よりロープウェイ&カールーターに乗り継いで、山上の展望台へ出ると眼下に瀬戸内360度の

大パノラマが展開、西には瀬戸内海を一跨ぎに明石海峡大橋の堂々たる雄姿は勿論のこと、対岸の淡路島も一望にでき、東へ目を転じると須磨浦の美しい海岸線が伸び神戸市街、六甲山山系、更に大阪湾から関空方面まで見渡すことが出来、暫しその景観を満喫しながら歓談の一時を過ごしました。

ロープウェイからの景色を楽しみながら下山し、須磨駅より海岸に出て遊歩道を散策、途中当日の会場である「シーパル須磨」を背景に記念写真を撮り、予定通り三時頃目的地に到着しました。

会議室は窓越しに松林や海岸が眺められるすばらしい環境にあり、先ず酒井先生よりBKCの近況並びに理工学部六〇周年記念事業についてご説明頂いた後、今回のテーマである明石海峡大橋のビデオ「これが世界一のつり橋だ」・（今年三月NHKより放映されたもの）を観賞、配布された技術資料「明石海峡大橋を支えるテクノロジ」・本州四国連絡橋公団」と共に構造・強度等を理解する一助としました。

特別講演は去る九月下旬イギリスの国際会議に参画されておりました酒井先生より「材料の確率疲労特性と信頼性保証技術」と題してご研究の一端をご披露頂きました。明石海峡大橋の寿命とも関連付けて説明して頂き、わかりやすく非常に興味深く拝聴致しました。特に疲労試験の繰返し数については疲れ限度以下の応力では、いくらか繰返しても破断しないと言う

のが我々三〇年卒の年代の通論でしたが、そこを超えて更に10の8乗・9乗回と試験を続けることにより、従来の常識を覆すような挙動が発見され、国際的にも見直されつつあるという話を聞き、色々な研究の価値のランク付けは可能かという疑問に対する一つの解答が得られたように思いました。引き続き用意したビデオ「フラクタルが新しい世界を開く」を見ながら最近の先生の研究「フラクタル」について解説をして頂きました。これも非常に興味深いテーマですが時間切れとなりましたので、次の機会に譲りたいと思います。

別席で、出張先から取り急ぎ駆けつけて頂いた大規模を加え宴会が始まりましたが、ここでも疲労試験の話題が継続し四〇年卒の入江様から「我々の時代は10の7乗回を超えもつとやるべきだと言っておったんだ。」と言うご意見も出て、三〇年代・四〇年代・そして現在へと、一見地味な研究ですが脈々と続けられ、特別講演でお聞きしたような一つの成果が得られたつある事は一に酒井先生のご精進によるものですが誠に喜ばしい限りであります。

このように同じ研究室の同窓会ならではの共通した話題で、時の過ぎるのを忘れ予定を一時間超過して午後八時お開きと言う事に致しました。まだまだ名残惜しい点もありましたが、文字通り懇の場「オアシス会」として有意義な一日を過ごす事が出来ました。ご出席頂きました皆様方に厚く御礼申

し上げます。



教員だより

UBCに滞在して
理工学部ロボティクス学科
教授 石井 明

立命館大学の海外研究員制度により、一九九八年四月から九月までの約半年間、カナダのパンクバー市にあるプリティッシュ・コロンビア大学(UBC)産業オートメーション研究所に滞在した。自己の新規テーマについて研究を進めると共に、同研究所の関連研究分野の研究者と交流する機会を得た。

同研究所は、地元の主要産業の一つである水産加工業からの技術開発要請を受けて、蛙のカッティング作業、「数の子」の等級別作業、缶詰めの外観検査などの自動化技術に研究開発実績をもっている。いずれもTVカメラ画像を処理して形状や寸法を計測する技

術であるが、工業製品の画像処理技術と比較して、生ものを扱うときの難しさがある。我々も常日ごろ、画像処理を応用した自動化技術の開発を考えるとき、食品加工分野の重要性を考えつつも、製品の変動が大きいなど工業製品とは異なる難しさがあることを認識していたところであり、研究担当者とのディスカッションは有益であった。

私の研究目的は、焦点位置を物体面上で移動することにより物体の形状情報を取得する従来の形状計測原理を、生産ラインにおける製品検査に適した三次元形状計測方式として発展させることにある。用途を考え、コンパクトな計測装置とすることに留意して設計を行い、卓上型の計測実験装置を試作し実験を進めた。期間中の成果として、新しい計測方式の有用性を確認すると共に、今後の研究



課題を具体的に把握することができたことは大きな収穫であった。これは、短期間ではあったが研究に専念できる良い環境の賜物であ



り、海外研究員制度とUBCのご好意に深く感謝する次第である。

UBCのキャンパスは、バンクーバー市の西部に位置し、太平洋に突き出た半島状の地域にあり、周りを海に囲まれている。キャンパス周辺から市中央部にかけては高級住宅地となっており、実に良く整備された美しい家並が展開している。気候は穏やかであり、殊に、七月から八月にかけては快晴の日が続く、しかも高緯度のため涼しく、夜は九時半ごろまで明るく、一年中のベストシーズンとなる。キャンパスは珠玉のように美しく、おそらく世界で屈指の美しいキャンパスであろう。三月末に到着したが、四月にかけて桜が満開で街路を埋め尽くし、まもなく五月が近づくと大きな石楠花がキャンパスのそこかしこに咲き誇る様子はとても美しいものであった。花木の季節が過ぎると、替わって整備された花壇の草花がキャンパスを彩った。遠方には海岸山脈の雪を頂いた山々が望まれたが、この光景は同じく雪を頂く比良山を

遠望するびわこキャンパスを思い起こさせるものがあり親しみを覚えた。このような快適な自然環境の中、カナダの人々はゆったりとした生活を送っているようである。またそれをキャンパス内にある劇場や周辺に点在するローコストなゴルフコースが助けており真に羨ましい。ある教授は、生活費は安いし環境も良いので倍の給料をもらわない限りよそに移りたくないと言っていた。一方、学生は朝早くから登校し、大学院生は夜遅くまで計算機に向かって研究を行っており感心させられた。大学院のゼミに毎週参加する機会を得たが、教授と学生のやりとりは接し、教授が事細かな研究指導を院生にあたえている様子に立命館大学と変わらぬ教育の姿を見て微笑ましく思った次第である。また同時に留守を守る私の研究室の院生のことでも思い起こされ、里心を覚えたものである。

UBCでの生活にも慣れ、研究も軌道に乗って来た頃、帰国の日がやって来た。九月に入ると、カナダの気候も秋にさしかかり、木々の葉も色づき、落ち葉を舞い上げる風も多く吹くようになってきた。まさに帰国の時を知らせるようであった。短い期間ではあったが、海外研究を通じて、学術教育交流および生活文化理解の上で貴重な体験をさせていただいた。この体験を今後の教育研究に生かして行きたいと考えている。

事務局だより

理工学部創立六〇周年に因んで、機友会の生い立ちと経過を調べて居りましたところ、たまたま九州支部発足の出欠回答書の中に「昭和十六年・日下部先生が機械科主任教授の時代に機友会を創設した。」旨のコメントがあり、それをスタート点として手元にある古い写真等を参考に纏めたものが下記の年代表です。特に昭和四〇年以前について、不明な点が多々ありますので機友会に関する情報

があれば何なりと、FAX等で事務局までお知らせ下さい。
尚、これまでの機友会ニュース等でご存じと思いますが、平成四年に楠菊水製作所の島田会長が機友会の会長に就任されて以来、各地の機友会支部づくりが精力的に進められ、平成十年十一月現在既に十支部が設立され、夫々特色ある活動が進められて居ります。左図に各支部の設立状況、並びに平成一〇年卒までのOB会員の全国分布状況を示します。学生を含め全国約七〇〇〇名の会員のご健闘並びに各支部の益々の発展をお祈り申し上げます。

機友会支部設立状況

(会員の全国分布状況)
平成 10 年卒業の OB 会員までを含みます
総合計 6695 人



Rits
立命館大学機友会事務局
〒525-8577
滋賀県草津市野路東 1-1-1
立命館大学 理工学部 機械工学科
TEL 077(561)2664
FAX 077(561)2665

り申し上げます。

機友会 60 年の歩み (平成 10 年 11 月調査資料)

年代	経過および(関連事項)
昭和一三年	(立命館高等工科学校設立) 1938年
昭和一六年	日下部先生・機械科主任教授時代に学生による機友会創設
昭和一三年	(学校教育法制定による新制「立命館大学」設立)
昭和二八年	学生機友会(大南幹事長)主催による工場見学会
昭和二九年	川崎車輛・川崎造船・川崎重工・朝日新聞社 同右・工場見学会
同年	新日国工業(株)・富士シン(株)・ダイハツ工業(株)他
昭和三〇年	第三回 機友会総会(学生主体&OB) 六二〇 衣裳第一号新箱(現三号箱)
昭和三二年	学生機友会による工場見学会
昭和三七年	榑本チエーン(株)・伊丹飛行場・日産製鋼(株) 同右・工場見学会
昭和三九年?	臨時総会・OBによる初めての大会 七八 初代会長に藤谷教授を選出 丸太町鴨川西岸・電電公社?
昭和四一年	第四回 総会 私学会館? 年月日・場所不明
昭和四二年	第五回 総会 以学館 一〇・三三
昭和四四年	第六回 総会 以学館 一〇・三〇
昭和四八年	第七回 総会 以学館 一一・一八
昭和五〇年	第八回 総会 存心館 一一・一五
昭和五二年	第九回 総会 中川会館 一一・二三
昭和五四年	第十回 総会 中川会館 一〇・二七
昭和五六年	第十一回 総会 末川記念会館 一一・二五 (機械工学科開設五〇周年記念)
昭和五八年	初代会長 藤谷先生(逝去) 五月二日
昭和六〇年	第十二回 総会 都ホテル 後継会長に大南教授を選出 藤谷先生追悼会 九・一〇 (理工学部創設五〇周年記念校友大会)
昭和六二年	大南総長就任記念祝賀会 学而館 一一・二四
昭和六四年	第十三回 総会 中川会館 一〇・二三 会長に楠菊水製作所・島田会長を選出
昭和六六年	全国一三プロックの機友会支部設立を決定
昭和六八年	支部設立 滋賀九・六、北陸信越九・一九、京都一〇・三三、 大阪一一・二八
昭和七〇年	第十四回 総会 末川記念会館 一〇・二七
昭和七二年	支部設立 東海 七・二五
昭和七四年	支部設立 兵庫 三・二七
昭和七六年	第十五回 総会 コアステーション 一一・二六
昭和七八年	支部設立 奈良和歌山 四・一六
昭和八〇年	支部設立 関東 九・二五
昭和八二年	第十六回 総会 コアステーション 一一・三〇
昭和八四年	支部設立 中国 九・六
昭和八六年	支部設立 九州 七・一一
昭和八八年	四国・東北・北海道 準備中 一九九八年